

県大で考える 〈いのち〉、〈生きる〉、そして〈人としての尊厳〉ということ  
— 私たちが向き合うべき人類社会の課題 —

A 特別授業第1回

## 〈生命〉の身体表現

— 世界で唯一無二の芸術創造の劇団態変 35 年間のエッセンス  
講師：金満里氏（劇団態変主宰・芸術監督 舞踊家・演出家）

満里さんは相模原障がい者虐殺事件（2016年7月）に接して、「自分が殺されたかもしれない。自分もあそこにいるんだという感覚を覚えた。自分の延長線上にあの事件がある。社会が障がい者を施設に追いやっている現実を直視しなくてはならない。これは障がい者だけの問題ではない」とおっしゃっています。満里さんの人間観のベースとなった10年間の施設体験、そこを出て表現して、「魂の自由を取り戻す」ことの意味を話していただきます。



日時：2018年11月30日（金）

14：30～16：00

会場：愛知県立大学 長久手キャンパス  
K棟2階 小ホール

定員：先着50名 入場無料・申込必要

### プロフィール

日本で活躍した韓国古典芸能家・金紅珠の末の娘として生まれる。3歳でポリオに罹患、全身麻痺の重度身障者となる。1983年劇団態変を旗揚げ、「身体障害者の障碍そのものを表現力に転じ、未踏の美を創り出す」を提唱し、身体表現芸術を世界に先駆けて創出してきた第一人者。

劇団態変では一貫して芸術監督を務め、劇団と自身のソロを合わせ70作品の作・演出を手がける（2017年8月時点）。

ほとんどの作品に出演もしている。平成23年度、24年度、26年度、27年度文化庁芸術祭参加。

海外からの招聘公演も多く、アフリカ・ケニアを皮切りにスイス・ドイツ、韓国・台湾・マレーシア・シンガポール・インドネシアとアジアでも招聘されている。

1998年初めてのソロ作品『ウリ・オモニ』を大野一雄・大野慶人監修で上演。以降、大野慶人監修でソロ作品3作品、計4作のソロ作品を世に出す。

身体の実在性から表現を引き出すワークショップも開催し、主宰する「金満里身体芸術研究所」では障碍・健常を問わず広く身体表現指導を行なう。

募集期間 | A: 11月28日（水）まで

申込方法 | 裏面をご覧ください、①E-mail、②往復はがき、③本学 Web 申込みシステム  
のいずれかの方法でお申込みください。

お問合せ 愛知県立大学 研究支援・地域連携課

電話 0561-76-8843

メール kenkyu@bur.aichi-pu.ac.jp

県大で考える 〈いのち〉、〈生きる〉、そして〈人としての尊厳〉ということ  
— 私たちが向き合うべき人類社会の課題 —

B 特別授業第2回

# 原発・放射能の実態と実像 — これからの世代へのメッセージ

講師：小出裕章氏（元京都大学原子炉実験所助教）

色にもおいも味もない放射性物質の姿から、  
40年以上その道に身を置いた専門家が、  
これからの世の中をつくり生きていく  
若者のみなさんへのメッセージとして語ってくださいます！

日時：2018年12月12日（水）

13:00～14:30

会場：愛知県立大学 長久手キャンパス  
S棟 S101教室

定員：先着50名 入場無料・申込必要



## プロフィール

1949年、東京生まれ。東北大学工学部原子核工学科卒、同大学院修了。74年京都大学原子炉実験所助教。  
2015年、定年退職。専門は放射線計測、原子力安全。伊方原発訴訟住民側証人。著書に『放射線汚染の現実を超えて』（北斗出版1992年、再刊：河出書房新社2011年）、『隠される原子力・核の真実』（創史社2011年）、『原発のウソ』（扶桑社2011年）、『原発ゼロ世界へ—全部なくす』（エイシア出版2012年）、『原発と憲法9条』（遊絲社2012年）、『日本のエネルギー、これからどうすればいいの？』（平凡社2012年）、『100年後の人々へ』（集英社新書2014年）、『原発と戦争を推し進める愚かな国、日本』（毎日新聞出版2015年）など。

募集期間 | B: 12月7日（金）まで

申込方法 | 裏面をご覧ください、①E-mail、②往復はがき、③本学 Web 申込みシステムのいずれかの方法でお申込みください。

お問合せ 愛知県立大学 研究支援・地域連携課

電話 0561-76-8843

メール kenkyu@bur.aichi-pu.ac.jp

県大で考える 〈いのち〉、〈生きる〉、そして〈人としての尊厳〉ということ  
— 私たちが向き合ふべき人類社会の課題 —

C 学術講演会

## ドキュメンタリー映画 Atomic Mom と制作秘話 — 科学といのち、核と平和、母と娘の葛藤

講師：M.T. シルヴィア氏

(ピクサー・アニメーション・スタジオ シニアマネジャー)

※英語による講演・日本語同時通訳あり

日時：2019年1月23日(水) 13:00～14:30

会場：愛知県立大学 長久手キャンパス K棟 小ホール

定員：先着50名 入場無料・申込必要



Atomic Mom (監督 M.T. シルヴィア)

原爆により人生を左右された日米二人の女性を軸とするドキュメンタリー映画。一人は第二次大戦後、科学者として核開発に携わったポーリーン・シルヴィアさん。そしてもう一人は広島で被爆した岡田恵美子さん。海軍の生物学者として携わったネバダ核実験場での経験からポーリーンは何十年を経た今も良心の呵責に苛まれていた。しかし、軍の機密であることから、守ってきた沈黙。ポーリーンが79歳にして初めて娘のM.T. シルヴィアに語った過去とは—。原爆の犠牲者となった岡田さんとの交流とは—。

### プロフィール

1974年に高校卒業後、1980年代の大半を反核運動活動家として過ごす。その後、15年間にわたり映画業界でプロのエンジニアとしてフリーの映画製作に取組んだ。現在、カリフォルニア州アラメダ郡エメリービル市に拠点を置くピクサー・アニメーション・スタジオに勤務し、シニアマネジャーを務める。カリフォルニアの東オークランドのあるコミュニティの隣人関係を描いた2002年の“Picardy Drive”は、彼女の最初のドキュメンタリー映画である。



募集期間 | C: 1月18日(金)まで

申込方法 | 裏面をご覧ください、①E-mail、②往復はがき、③本学 Web 申込みシステム  
のいずれかの方法でお申込みください。

お問合せ 愛知県立大学 研究支援・地域連携課

電話 0561-76-8843

メール kenkyu@bur.aichi-pu.ac.jp